

# 今年はこれが来る!! 7つのキーワード

アフターパーツを語るうえでもはや欠かせないイベントともいえる東京オートサロン。今年も魅力的なニューアイテムが数多く出展されていた。それらをじっくりとチェックしてみれば新たなトレンドが読み取れる。今回は7つのキーワードから、その潮流を紐解いていこう。

まとめ：石川大輔 写真：前田恵介、石川大輔

## キーワード1

# クロカン4駆

アゲ系カスタムが  
復権の兆し!?

ランフラワーを持ち込んだのは、ワイドボディなクロカン4駆のイメージを演出していた。



来場者数は33万人突破と過去最高を更新した今年のオートサロン。ひと昔前まではデューブなカスタム好きのための祭典というイメージもあったが、いまやあらゆるジャンルを網羅。出展車両もノーマルからフルチューンまでバラエティに富んでおり、老若男女の誰もが楽しめる総合カーイベントへと生まれ変わっている。

それだけに確固たるトレンドが生まれにくい状況ではあるが、そんななかでも目立っていたのが新型ジムニー。カスタムベースとしても手頃感のあるプラットフォームも後押ししてか、アゲ系から王道カスタムまで多彩なデモカーが並んだ。また多くのタイヤメーカーのアメリカンSUVをはじめとするクロカン4駆を展示するなど、本格オフローダーの復権を予感させた。今年2月には新型アメリカンも登場予定というから、その人気にますます拍車がかかりそう。



大型トラック用のタイヤでリフトアップしたジムニー。シエラはR31ハウスの作。もはや笑っちゃうほどの迫力だ。



アフターパーツメーカーの動きも素早い。阿部商会はビルシュタインのダンパーを装着したデモカーをディスプレイしていた。



横溝ゴムのオフロードラプターもオフロード向けタイヤを提案。こちらのトレンドラインは自然の岩をイメージしていた。

スズキもジムニーのカスタマイズ仕様を展示。ワイルドに仕上げられたオフロードスタイルで来場者の注目を集めていた。

